

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	肖 凌翬	
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当			
論文題目 南西中国ミャオ族の服飾に関する文化人類学的研究 －中国貴州省施洞鎮ダンプウの事例を中心に－				
論文審査担当者				
主査	教授	長坂	格	印
審査委員	教授	荒見	泰史	印
審査委員	教授	丸田	孝志	印
審査委員	准教授	西	真如	印
審査委員	助教	中屋敷	千尋	印
審査委員	名誉教授	高谷	紀夫	印
〔論文審査の要旨〕				
<p>本論文は、中国の貴州省黔东南ミャオ族トン族自治州を主たる居住地とする、ミャオ族のサブ・グループであるダンプウの服飾に関する民族誌的研究である。ミャオ族は、儀礼時に、精巧かつ華麗な刺繍が入った衣装を纏い、さらにきらびやかな銀装飾品などを身に着けることで知られている。本論文の目的は、第一に、ミャオ族のダンプウの衣装と装飾品を身に着ける実践の変容を、「服飾実践」という概念を用いて、フィールドワークにもとづき詳細に記述すること、第二に、そこで描き出された服飾実践を、コミュニティ内部の社会文化的規範、出稼ぎの拡大、観光開発の進展、ダンプウの人々への学術的関心の高まりといった複数の文脈との関連で考察し、現代中国の少数民族の服飾実践に関する新たな知見を提示することである。本論文の資料を得るためのフィールドワークは、貴州省黔东南ミャオ族トン族自治州のほぼ中部に位置する台江县において、2014年4月から2018年5月にかけて断続的に約1年間にわたり実施された。</p> <p>論文は5章によって構成される。序論にあたる第1章では、まず、従来の装いの人類学的研究における衣装研究に傾斜した研究動向、および衣装と装飾品が別個に研究されてきた研究動向を踏まえ、人々が衣装と装飾品を様々な場面でどのように選択し、組み合わせていくかをトータルに把握していくことを可能にする、服飾実践という概念を提起した。次に、ミャオ族の民族衣装に関するこれまでの研究が、コミュニティ内部の社会文化的規範や人々の審美観に関心を集中させてきたのに対して、本論文は、観光化の進展や出稼ぎの拡大といった複数の構造的な文脈を含む、多層的な構図のなかでの人々の服飾実践の生成を考察するという研究視角を提示した。</p> <p>第2章では、調査および調査地の概況を説明し、ダンプウの主要祭日の伝統的な習俗について説明を加えた。第3章では、衣装、銀装飾の順に、現在のダンプウの服飾実践を、儀礼時の盛装を中心に整理したうえで、人々がコミュニティの外部と内部からの「他人のまなざし」に影響されながら、時にジレンマや困難を抱えつつ、服飾を実践している状況を考察した。第4章では、ダンプウにおける服飾の商品化、地域の観光化、ダンプウの服飾文化への学術的関心</p>				

の高まりが、第3章で記述分析した服飾実践の内容といかに関わっているかを考察した。最終章である第5章では、各章の論述内容をまとめた後、ダンプウの服飾実践に影響を与える諸アクターとの関係において、ダンプウの服飾実践が生成する構図を図式化し、さらに考察を加えた。そして、コミュニティ内部の人々や政府関係者、開発業者、研究者など、複数のアクターからの働きかけとまなざしの交錯のなかで、人々の服飾実践を描き、考察するという本論文が採用した研究手法が、現代中国の他の少数民族による服飾実践の研究においても有効性および重要性を持つことを主張した。

以上の内容を持つ本論文は、服飾実践という観点から、ダンプウの人々による衣装と装飾品を身に着ける実践の動態を、儀礼時の洋服などの利用を含めて詳細に記述分析したこと、また、それらの服飾実践がいかに関わっているかを示すことを通して、現代中国の少数民族の服飾実践を多角的、多層的に把握するための研究視角を提示したことの2点において、人類学的服飾研究に独自の貢献をおこなっていると評価できる。

以上の審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。